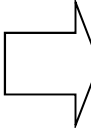
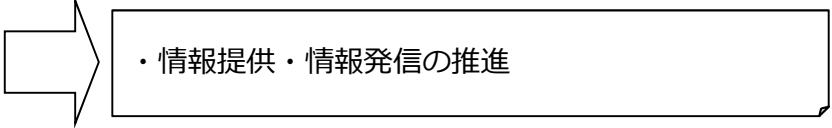
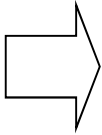
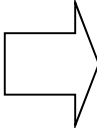


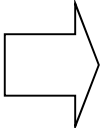
第1回2Rグループ会議における主な意見

区分		視点	課題	主な意見
家庭系	発生排出抑制	ごみ減量や環境配慮行動を促すための取組	・家庭ごみ全体のごみ量は政令市の中でも平均 ・廃棄ごみだけでなく資源物を含めた全体のごみ減量が必要	● マイバッグを持参する人は増えている。 ● コンビニ、デパート、ドラッグストアの業界では、レジ袋有料化になかなか賛同が得られない。まずは声掛け運動をすることが重要との意見がある。 ● 事例としては少ないが、肉をトレイから袋に移し替えている人を見かける。1つの選択肢として、大っぴらにそれができるコーナーがあってもよいと思う。 ● トレイの使用は、商品の見映え等の視点が、消費者と販売者が同じになればなくすことはできるかと思うが、現状では難しいと思う。 ● トレイは流通段階での商品の傷みを防ぎ、保護する意味合いがあるので、なくすことは難しい。 ● 例えば、コンビニでレジ袋を断ったらポイントが付くなど、何かインセンティブあると取組が進むと思う。 ● 若者は、取組の方法を知らないだけで、取組への抵抗等は少ないと思う。 ● 取組に対する世帯別傾向があると思う。 ● 子供時代からごみ問題の教育をし、それを家庭に持ち込んで話し合うようになればいいと思う。 ● 札幌市内には町内会が多くあるので、今の取り組み+アルファの取り組みにより、将来の力になると思う。 ● 単に数値で目標を決めるだけではなく、それによる効果の見える化ができればよい。  ・取組方法の周知強化 ・取組促進に向けた動機付け ・町内会における取組促進 ・効果の見える化

区分		視点	課題	主な意見
家庭系	発生排出抑制	継続的な生ごみ減量・ 食品ロス対策	・食品ロス量は年間約 2 万 3 千トン	● 市民が消費期限や賞味期限のことを学べば、生ごみ排出が減るのではないかと思う。 ● 生ごみ処理機等の助成制度を活用する市民に、地域コミュニティーにおける情報発信のキーパーソンになってもらうのがよいと思う。 

区分		視点	課題	主な意見
家庭系	リユース	リユース機会の提供	・リユースに関する啓発関係が少ない ・リユース需要の高い衣類、家具、子ども用品への対応 ・約1万トンの古着が捨てられている	●クリーニング店での古着回収やじゅんかんコンビニなど知らない人が多いので、どのように広めていくか。 ●いろいろな取組を周知する何かがあるといいと思う。 ●取組を数値化できないかと思う。(取組件数、事業者数など) ●民間の事業を推進することが大事だと思う。事業になるかならないかの取組をどう応援していくかだと思う。 ●ファッションロス、家電品ロス、健康器具ロスなど、ほとんど新古品で家の中に滞留しているものがある。そういうものを循環させる仕組みがあるといいと思う。 ●既に循環の仕組みが出来上がっているものがあるかなりあるので、それを応援する。 ●札幌市のスキーリサイクルが始まったが、中学・高校の制服等も同様のシステムがあるといい。 ●強制的だと窮屈になってしまうので、楽しみながら取り組むことだと思う。 ●フリーマーケット等において取引量を集計し、札幌市の処理コスト削減分を助成するようにすると、費用対効果と価値が実感できると思う。  ・情報提供の推進 ・取組の見える化 ・民間の取組の推進 ・リユース品目の拡大

区分		視点	課題	主な意見
家庭系	リユース	高齢者への対応	・生前、遺品整理に伴うごみへの対応が必要	● お年寄りはお物を持っていくことができない人が多いので、回収ボランティアの仕組みがあればいいと思う。  ・回収方法の構築

区分	視点	課題	主な意見
事業系・その他	事業者による自主的なごみの減量への取組	・事業ごみの更なる減量	● 食べられない子供へのフードバンクみたいな仕組みができればいいと思う。 ● 地域の市民と事業者が互いに情報を取れるような仕組みができれば、地域の取組等に貢献できると思う。  ・地域との連携の構築

区分	視点	課題	主な意見
事業系・その他	イベントごみ・観光ごみ対策	・ イベント開催により発生するごみへの対応が必要 ・ 観光客が出すごみへの対応が必要	● イベントの際にごみ箱のところに立って分別等と呼び掛ける。 ● イベントを活用して情報発信をするのがいいと思う。 